

令和 3 年度 県立古河中等教育学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	○6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、一人一人に高い志をもたせ、その実現に向けて知性と人間性を育む。 ○科学教育や国際教育を推進し、体験的・探究的な学習活動の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。 ○異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○昨年度は新型コロナウイルス感染症流行等の影響を受け、多くの事業が中止となってしまったが、可能なものは工夫して実施することができた。プロジェクトの更なる発展や進化に向けて、新たな展望を協議しながら、より一層の充実を図る。	Σソフィア・プロジェクトの推進	①Σアカデミア(弛まぬ学ぶ力・自ら学ぶ姿勢の育成)、Σコミュニケーション(発信力・コミュニケーション能力の育成)、Σサイエンス(科学的思考力の育成)及び学校行事、各授業と連携しΣソフィア・プロジェクト(探究活動)を計画的に実施する。	A
○昨年度は新型コロナウイルス感染症流行等の影響により、学校公開や文化祭等が中止となってしまった。開催方法の工夫やホームページ、学校紹介動画を利用して、広報活動を継続していく必要がある。	開かれた学校づくりと広報活動の充実	②本校の特色ある教育活動及び教育活動全般について、ホームページや各種たより等で保護者や地域の方々に順次発信する。 ③感染症流行等の状況を的確に判断し、学校説明会や学校公開等の実施を図る。	B
○学力の育成については概ね達成できた。今年度は、生徒がより自主的・主体的な取り組みとなるよう研究し、授業力のさらなる向上を図る。また、ICTを活用した授業を展開するとともに、少人数指導やティーム・ティーチング等の授業形態を工夫し、生徒の能力に応じた学習指導や支援の充実を図る。	高い学力の育成と探究的な学習の確立	④アクティブ・ラーニング型の授業やICTを活用した授業を展開するとともに、少人数指導、ティーム・ティーチング等の授業形態の工夫により、生徒がより自主的・主体的に取り組む学習指導、及び思考力・判断力・表現力の育成を重視した学習指導を展開する。また、生徒の能力に合わせた学習支援の場を設定し、個に応じた学習指導を行う。	B
○基本的生活習慣を定着させることができた。今後さらに生徒が安心して学校生活を送れるように規範意識を高めるとともに、スクールカウンセラーや保護者、関係機関等との連携を密にして、教育相談体制の充実を図る。	生徒指導と教育相談体制の充実	⑤基本的生活習慣を定着させるとともに、多くの体験活動を通して豊かな心の育成を図る。 ⑥スクールカウンセラーや担任等との面談や相談を組織的・計画的に実施し、生徒の「心の悩み」に対する支援を積極的に行い、生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実を図る。 ⑦学校環境衛生及び学校安全管理の維持向上を図る。	B
○キャリア教育の系統的・段階的指導計画に基づき、生徒の成長段階に合わせた情報提供やプログラムを行うことができた。また、学習と探究活動の充実や手帳活用により、キャリアプランニング能力や自己管理能力の伸長を促せた。さらに、模試や各種テスト等を生徒自身が分析し課題解決を図る機会を増やしたり、個々の生徒の把握に努める機会を設けたりして、指導の充実を図る。	キャリア教育の推進	⑧学習と探究活動の系統的指導を通して、将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図る。 ⑨課題を発見する力や自己管理能力の伸長を促し、生徒一人一人の目標実現に向けたキャリア教育を行う。 ⑩キャリア・パスポートを活用し、学びを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を促す。	B
○昨年度のストレスチェックを分析すると、当該部署の仕事のコントロール度が全国平均より少し高いことを示した。役割の分担や行事の精選を検討し、効率的かつ効果的な教育活動の実践を図る。	働き方改革	⑪教育目標達成のための共通理解と情報共有をし、仕事の分担や行事等の具体的見直しをより一層図る。 ⑫積極的に勤務時間の削減を図り、職員が休暇等を消化しやすい環境整備に努める。	B

評価基準 A：十分に達成できた。 B：概ね達成できた。 C：やや不十分であった。 D：達成できなかった。

目指す学校像		具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
三つの方針 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	豊かな心（寛容の精神、謙虚さ、思いやり）と確かな学力を兼ね備えた次代のリーダーの育成 ○6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。 ○科学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。 ○異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。	B		○教育目標の達成に向けて、6年間を見通した各プロジェクトの改善やさらなる工夫を重ねていくとともに、生徒一人一人への細部にわたる支援体制の強化や整備に努める。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	○Σソフィア・プロジェクトと各種教育活動とを連携させ、体験的・探究的な学習活動を展開し、科学的思考力や判断力、表現力を培う。 ○6年間の体系的なシラバス作成と学習システムを構築し、生徒一人一人が将来の夢や目標に向かって自主的・主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ○学校行事や部活動、ボランティア活動などを通じて異年齢交流を行い、社会に貢献するリーダーとしての資質を育成する。	B	B	○PDCAサイクルにより、Σソフィア・プロジェクトの探究活動をさらに充実させる。 ○各教科のグランドデザインをもとに、生徒の学習活動の充実を図る。 ○生徒同士の主体的な活動を通して、互いが刺激し合える交流活動の充実を図る。
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	○知的好奇心が豊かで、他者と協働して課題を探究しようという意欲のある児童 ○国際的な諸問題や医学に高い関心をもち、社会貢献への意識が高い児童 ○他者との違いを認め合い、お互いに尊重し合うことができる児童	B		○小学生やその保護者の方々から本校に対する関心が高まるような取組を今後も続けていく。
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	○言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度の育成	○語彙力を向上させるための授業や課題、テスト問題を工夫するとともに、段階的な漢字検定取得の目安を設ける。 ○発達段階に応じた新聞等を含めた多方面の読書の広がり、文章を読む習慣の一層の充実を図る。 ○6年間を見据えた言語事項、古典学習、小論文などの系統的段階的指導の拡充を図る。 ④	B		○語彙力の向上につながる言語活動の設定やテスト問題の工夫に関しては教科内における情報共有をさらに強化し、継続的にやっていく必要がある。また、本校での漢字検定の実施についても検討していく。
	○「話す・聞く」、「書く」を中心とした言語活動を通して、表現力を高める系統的・段階的指導の充実	○積極的に表現活動を取り入れ、表現力を高める。 ○自分の意見や考えを他に示し、書いたり、話したり、他者の意見を傾聴したりする場面を横断的に設定する。 ④	B	B	○表現力を高める活動では、評価規準を明確に示し、生徒が目指すべき姿を意識しながら活動できるよう工夫していく。
	○論理的な思考力や表現力、判断力を高めるための対話的で深い学びの授業の工夫	○段階的にディベートやグループ活動、プレゼンテーション活動を行い、論理的な思考力や表現力、判断力を高める指導を行う。 ○授業での発問や課題設定をより一層工夫し、生徒が自ら考え、学び、話し合う習慣をつける。 ①④⑨	B		○生徒が主体的に対話する必要性を感じられる発問や課題の工夫について教科内での情報共有に努め、実践に生かしていく。
社会 地歴・公民	○主体的な学びに繋がる基礎基本の確実な定着を促す指導の充実	○視聴覚教材やデジタル教材を活用し、興味関心を高める。 ○ワークシートや小テストを継続して活用し、基礎基本の定着を図る。 ④	A		○新課程への移行にあわせ、資料活用能力や思考力育成のために、発問やテストでの出題の仕方を改善し、資料から生徒自身が考え、解決できるようにしていく。
	○社会的な資料活用能力を高める指導の工夫	○地図や年表、統計グラフなどの資料を多面的、多角的に読み取らせ、社会的な資料活用能力を育成する。 ④	B		○生徒の実生活やキャリア形成に関連した授業を行えるようにしていくために、各分野で現代社会の課題をとらえた授業を実践していく。
	○社会的な思考力、判断力、表現力を図る指導の工夫	○社会的事象に対する自分の考えや意見をまとめさせる機会において、思考・判断・表現する力を高める指導をより一層工夫する。 ○社会的事象に対する自分の考えや意見を実生活に結び付け、キャリアの形成につなげることができるよう指導を工夫する。 ④⑨	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
数学	○学習意欲を高めるための指導の工夫	○ICTを積極的に活用し、数学的活動を通して数学的な思考力・表現力を身に付け、原理や法則についての理解を深める。④	B	○基礎力の養成や発展的な学びの促進を図るため、SUT等を効果的に活用し、個に応じた学習支援を行う。 ○生徒の主体的な学習や探究的な学びを促進するような授業の工夫や、教科横断型の授業展開の研究を行う。 ○ICT活用の授業やオンライン授業・課題配信等の充実を図るため、教科間で事例の研究や情報の共有を行う。
	○基礎基本の定着を図るとともに応用力の育成を図る指導の工夫	○学習内容の理解度や達成度に応じて課題内容の精選や自主学習の推奨を行い、基礎基本の定着や応用力の育成を図る。④ ○小テストや単元テストを通して基礎基本の定着を図るとともに、習熟度に応じた授業内容や学習形態を工夫し、学習支援の充実を図る。④	B	
	○個に応じた指導の充実	○生徒の学習達成度に応じて、より発展的な学習内容を取り扱い、難関大学受験に対応できる高い学習能力の育成を図る。また、基礎基本の定着を目指した補習をSUTの時間等を利用して行い、個に応じた学習支援を行う。④	B	
理科	○自然の事物・事象に進んで関わる態度の育成	○シラバスの学習計画を活用して、見通しをもって授業に取り組ませるとともに、一人一人の生徒の疑問や気づきを取り上げ、日々の授業に生かす。④ ○SCIENCE NEWSなどで最新の科学の話題を提供し、生徒の興味・関心を高める。④ ○校外での体験的な活動や観察を計画・実施する。④	B	○次年度も新型コロナウイルスの感染状況を的確に捉え、外部との連携した活動の工夫に取り組む。 ○オンライン授業や分散登校での学習活動においても、確かな学力の育成に向けての工夫をさらに図っていく。 ○次年度においても、実施時期や方法を十分に配慮した上で、前・後期課程ともに実験を積極的に行っていく。
	○科学的に探究する力の基礎を身につける授業の工夫	○基礎基本の定着のための課題提示や小テスト等を継続的に行う。④ ○予想・考察においてアクティブ・ラーニング型の授業形態を積極的に取り入れるとともに、大学受験に向けた確かな学力の育成を図る。④ ○感染症流行等の社会状況に応じて、実験を行う時期や方法を十分に配慮する。④ ○実験器具等の充実を図り、実験を多く取り入れた授業を積極的に行う。④	B	
音楽	○創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能を高める指導の工夫	○学習カードを活用し、生徒が目標を明確に把握しながら音楽表現の技能や表現力を高めていけるよう工夫する。④ ○アンサンブルや合唱等の活動を通して、試行錯誤しながら音楽表現を創意工夫するとともに、質の高い「思考力・判断力・表現力」を育成する。④	B	○他者との協働を意識した知識・技能の習得については実現できた。音楽表現に対する積極性や主体性については、より具体的な方策を生み出し、成果を上げる必要がある。 ○表現の領域において、我が国の伝統音楽に関わる実技指導が少ないのが現状であるため、楽器の整備等の工夫を図る。
	○他者と協働しながら主体的に学習に取り組む態度の育成	○個の活動からグループ活動へと発展させる過程を意識し、他者と交流しながら主体的に音楽表現を生み出していける力を養う。④	A	
	○音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成	○我が国の伝統音楽や世界の様々な音楽に触れ、異なる文化的・歴史的背景に目を向けながら音楽の良さと美しさを味わえるようにする。④	B	
美術	○年間を通して様々な分野を学べる主体的な授業の工夫	○前期課程において、基本的な道具の扱い方や技法を習得させ、自らの表現に生かせるような題材設定を行う。また、後期課程ではより実践的な内容を扱い、専門的な知識や技術の習得を図る。④ ○生徒同士の学び合いの活動を通して、生徒が自主的・主体的に制作活動や他の作品の鑑賞を行い、様々な分野における発想・構想の能力の向上を図る。④	B	○絵画、デザイン、立体など、様々な分野を授業に取り入れることで、生徒が創造する喜びを経験できるようにする。 ○オンラインやICTを用いた題材や鑑賞を視野に入れ、生徒の学びに幅をもたせる。 ○生徒の発達段階に応じた題材や指導を行う。
	○自然美や美術作品の理解・見方を広げ、美術文化を味わう鑑賞の能力の育成	○美術作品の制作活動と鑑賞を通して、美術文化への興味・関心を高めるとともに、形や色彩、材料、光などの性質や作者の感情、作品の内容を読み取り、鑑賞の能力を高める。④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健体育	○言語活動の充実	○感染症予防に努めつつ、生徒同士が協力し、教え合いながら各種の運動やスポーツを積極的に行えるように助言する。 ④ ○学習カードを効果的に活用し、対話のある活動について工夫する。 ④	B	B	(感染症予防対策の継続を前提とし) ○実技(身体活動)の時間確保と学習カードの形式や取り組み方を再考し効果的で対話的授業の実践を目指す。 ○ICTを活用した活動の充実を図る。 ○体育理論を体力の向上へ活かせるよう効果的に行う。
	○各種の運動を通して、自ら体力を高める授業の展開	○体力テストの結果から自己分析を行い、各年次・発達段階や性差、個人差を踏まえた主体的に取り組める基礎体力向上のための補強運動や練習方法の指導を行う。 ④	B		
	○適切な意思決定を行うための能力を育てる保健学習の展開	○様々な健康問題について、ペアワークやグループ学習を取り入れ、自分のこととしてとらえ、適切な意思決定につながる思考力や判断力の向上を図る。 ④	B		
技術・家庭	○学習意欲を喚起する指導計画や題材の工夫	○感染症予防に努め、年間計画の実習等を柔軟に変更できるように対応しながら、各学習内容を進めていく。また、3観点による評価計画を立てる。 ④	B	B	○「思考・判断・表現」「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」3観点のバランスや関連を十分に考慮し、評価計画を見直す。 ○学習計画を立てる際には、新型コロナウイルス感染症予防に努めながら、実習等の計画を立てるが、感染状況に応じて柔軟に計画を変更することも考える。 ○ICT機器の使用法、情報モラルについての学習等を他教科と連携しながら積極的なICT機器の活用にも努める。
	○基礎基本の定着を目指した指導と言語活動の充実	○実践的・体験的な活動を通して習得した知識及び技能が、生活の自立につながるように活動を組み立てていく。 ④⑤ ○ICTの使用法だけでなく、情報モラルについての学習も他教科と連携を図りながら進めていく。 ④⑤	B		
	○生活や社会とのかかわりを深める指導の工夫	○授業の導入や終末で、学んだ技術や知識の生活場面への活用を考える場を設定し、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせるようにする。 ④ ○新しい技術の発達や環境とのかかわりに目を向け、持続可能な社会の実現を意識した指導計画や題材を工夫する。 ⑤	A		
外国語(英語)	○4技能をバランスよく育成する授業の工夫	○授業の導入に、ウォームアップ活動や小テストを行い、4技能のバランスよい活動ができる帯活動を取り入れる。 ④ ○アウトプットを意識したインプットを行うことで、論旨を理解し、自らも論理的に表現するために必要な思考力の育成を図る。 ④	A	A	○基本的な文法を確実に定着し、ライティングやスピーキングなどの表現活動につなげていくための指導の流れを確立していく。また、教科内で共通理解を図り、この取り組みを全年次で行っていく。 ○文章全体の論旨を読み取る力や聞き取る力に必要な論理的思考力を育てるための授業方法を研究し、指導の流れを確立する。 ○年次を超えて互見授業を行い、担当年次以外の指導の流れや使用している教材等について共通理解を図る。さらに、指導法について意見交換を行い、授業の改善につなげていく。
	○表現力の育成	○英語でのディベート実施に向けたスピーキングやライティングの系統的・段階的指導を体系立てて行うべく、年次間の情報共有に努める。 ④ ○授業、課題、テストの中での英作文や自己表現作文、パフォーマンステストなど、表現力の育成につながる題材を取り入れる。 ④	A		
	○異文化理解と学習意欲の向上	○帯活動としての小テストや週末課題等を継続的に実施し、基礎基本の知識、学習内容の確実な定着と自主学習習慣の確立を図る。 ④ ○1年次から5年次まで行われる各語学研修を系統立てて実施し、異文化に積極的に触れ、理解しようとする態度の育成を図る。 ④ ○ミライタッチなどのICT機器を活用した授業の研究、実践を行い、生徒の理解と表現の能力を伸ばす指導法の在り方を検討する。 ④	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
家庭	○基本的な知識や技術を身に付けさせる指導の工夫	○感染症予防に努め、年間計画の実習等を柔軟に変更できるように対応しながら、各学習内容を進めていく。 ④ ○消費者教育では、専門的な知識を深めるため、ゲストティーチャーによる講演等の実施を検討する。 ④⑤	B	B	○新型コロナウイルス感染症予防に努めながら、実習等の計画を立てる。 ○消費者教育を充実したものにするため、専門家による講演等を実施するなど、専門的な知識をより深める工夫を行う。 ○学んだことを実際の生活や社会の中で生かそうとする力を育てていく。
	○日常生活と社会とのつながりを結びつける授業の展開	○現在と未来の自分の立場に立って気持ちを考えさせ、家族や地域との関わりについて関心をもたせるなど、学んだことを実際の生活の中で生かすことができる力を育てる。 ④⑤			
情報	○基本的な知識や情報モラルの習得に向けた指導の工夫	○情報教育における「情報を収集する活動」や「情報を判断する活動」、「インターネットの特徴や仕組みを理解する活動」、「情報モラルの必要性や情報に対する責任について考える活動」などを通して、基礎知識や情報モラルの習得を図る。 ④	B	B	○進化が著しい情報モラルについて、最新の事例を生徒と共有し、常にアップデートしていく必要がある。 ○次年度においても「*Σリサーチ」と連携し、「身近な課題について解決する能力の育成」を継続していく。
	○情報化社会の諸課題を主体的に解決し、創造的な能力と実践的な態度の育成	○情報化社会の諸問題について、グループで課題を提起し合い、ブレインストーミング法などを利用し問題解決を図ることで、より実践的な能力を育成する。 ④	B		
学校設定教科・科目 総合・ *Σリサーチ	○課題発見・情報活用能力の育成	○身のまわりの様々な事象や学術的な研究成果に目を向け、自らの課題テーマを見つける。また、それに関連する情報を集め、基礎的知識を身に付ける。 ④	B	B	○課題設定や課題解決に向けて情報を収集し活用する能力を養い、探究力の育成を図る。 ○課題研究発表や論文作成に必要な I C T の活用能力や表現力・発信力の向上を図る。
	○課題解決能力の育成	○設定した課題を解決するために、具体的な研究計画を立てることを通して、論理的な思考と手法及び表現力を身に付ける。 ④	B		
プロジェクト 推進委員会	○Σソフィア・プロジェクトの推進	○生徒の実態に即し、Σアカデミア(弛まぬ学ぶ力・自ら学ぶ姿勢の育成)、Σコミュニケーション(発信力・コミュニケーション能力の育成)、Σサイエンス(科学的思考力の育成)等の系統立てた活動及び様々な体験活動を通して、Σソフィア・プロジェクト(探究活動)(創造・探究・行動力の育成)のより一層の充実を図る。 ①④⑧⑨⑪⑫	A	A	○生徒の育成すべき資質・能力を明確にし、「育てたい生徒像」へより一層近づくよう、さらなる創意工夫を重ね、各事業の系統性を図る。
教務部	○自主的・主体的な学習、探究的な学習の確立	○アクティブ・ラーニング型の授業や I C T を活用した授業のより効果的な手法の研究と実践、及び少人数指導やティーム・ティーチングなど生徒の実態や授業内容に応じた授業形態の工夫により、よりきめ細かな学習指導の充実を図り、個に応じた支援を図る。 ①④ ○先取り学習や深化発展型学習、体験的・問題解決的な学習の導入を促す。 ①④	B	B	○後期課程における新学習指導要領の実施に伴い、評価方法についての共通理解や教科横断的な学習の工夫を図る。 ○ICTの活用をさらに発展させ、探究的な学習活動の実践に向けて、教科内研修等の充実を図る。 ○生徒による学校案内や学校紹介動画の作成を継続し、広報活動の充実を図る。
	○広報活動の充実	○学校案内等の作成・配付による学校紹介の充実を図る。 ② ○各種たよりやホームページ等を通して、教育活動を積極的に情報発信する。 ② ○感染症の状況を的確に判断し、学校説明会や学校公開等の実施を図る。 ③	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導部	○基本的生活習慣の確立	○挨拶や礼儀、服装、遅刻指導等を日常的に実施し、規律ある生活態度を養う。 ⑤	B	○ホームルームや集会、学校行事等において基本的生活習慣の重要性を理解させる。 ○いじめ(不登校を含む)防止対策委員会等を定期的・臨時的に行う。 ○日常の注意喚起を頻繁に行い、交通規範意識や情報モラルの徹底を図る。 ○生徒の不登校等において早期発見や初期対応を組織的に行う。
	○生徒指導体制の確立	○定期的な情報交換の場を設けることにより、教員間の共通理解・情報の共有化を図り、いじめ防止対策等組織的な生徒指導体制を確立する。 ⑤⑥	A	
	○交通安全教育、ケータイ・スマホマナー教育の充実	○交通安全の啓発を図り、交通事故防止に努め、生徒の交通規範意識を高める。 ⑤ ○携帯電話やインターネットの正しい利用法とネット犯罪からの自己防衛の思索を促す。 ⑤	B	
	○教育相談体制の充実	○生徒と教員間、教員と保護者間の信頼関係を構築するとともに、関係機関・スクールカウンセラーとの連携を密にし、不登校及び問題行動の未然防止に努める。 ⑥	A	
進路指導部	○キャリアプランニング能力の育成	○生徒が将来への考えを形成し、構想、創造する活動や授業、キャリアワークの実施とその工夫に努める。 ⑧⑨⑩	A	○進路講演会や体験学習において、生徒の将来に向けての意識付けを引き続き行う。 ○オンラインも含め、オープンキャンパスや大学説明会などへの積極的参加を促す。 ○外部模試や適性検査を行う中で、客観的に自己の能力と適性を分析し、引き続き今後の学習や生活に活かす指導をする。 ○次年度以降も、先生方や生徒の高大接続プログラム等への積極的参加を促す。
	○課題発見・課題解決能力の伸長	○基礎的・汎用的能力の育成のため、見通しをもった体験・経験の蓄積を促す。 ①④ ○外部模試や各種検査、体験学習等の中で、課題を発見し解決する能力の伸長を促す。 ①④⑨	B	
	○系統的キャリア教育の実施と支援体制の確立	○外部模試や各種テストのより広い視点からの結果分析を行い、生徒の実態や課題を把握し次への指導につなげる。 ④ ○生徒個々の進路希望や学習状況を把握し、面談等の指導に生かす。 ⑥⑧⑨	B	
保健厚生部	○学校環境衛生の維持向上	○感染予防対策(体調管理チェック・施設設備の消毒・三密回避など)を継続し、安全な学校環境の保持に努める。 ⑦ ○各種定期健康診断や日常の健康観察や健康相談により、心身の健康問題を有する生徒の早期発見と事後指導による改善に努める。 ⑤⑥⑦ ○学校環境衛生の検査や管理を適切に行い、維持改善を図る。 ⑦	A	○心に健康問題を抱える生徒が増える中、感染症対策と学校生活・学習活動等のバランスを取り、心身の健康保持増進を図る。 ○安全点検を計画通り実施し、改善を図る。 ○実践的な危機管理能力の育成を図るため、より緊張感をもった避難訓練の実施を目指す。
	○学校安全管理の維持向上	○生徒の発達段階に応じた安全対策・安全教育を計画的に行い、危機管理・安全能力の育成を図る。 ⑦ ○安全点検などを計画的に行い改善を図る。 ⑦	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動部	○学校行事の目標を実現するための指導の充実	○生徒会、実行委員会、ホームルーム委員長を各種行事の企画・運営の中心とし、生徒の自主的・自発的な活動を促す。④	A	○昨年同様に、新型コロナウイルス感染症予防に十分努めながら、生徒の主体的な活動の場である各行事や生徒会・委員会活動、部活動を工夫して実施する。 ○縮小して行った行事等については、できるだけ以前の形式で近い形で行えるようにする。 ○キャリア・パスポートやスコラ手帳を活用し、キャリア教育の充実を図る。
	○よりよい人間関係を築く力、道徳的実践の指導の充実	○年次単位の行事も含め、各種行事を通して人間性や社会性の育成を図る。④⑤	B	
	○豊かな人間性、社会性を身に付けるための集団活動の充実	○人間性や社会性の育成を図るために、感染症対策を考慮し、地域や各機関と連携して自然体験活動や社会奉仕体験活動等の計画を行う。④⑧⑨	B	
	○効果的なキャリア教育の実現	○豊かな人間性や社会性を育むために、生徒会活動、部活動、委員会及び係活動の活発な活動を支援する。④⑤ ○各教科と連携しながら文化的体験活動等の積極的な推進を図る。④⑤	B	
渉外部	○PTA組織のあり方の検討	○生徒や地域の実態にあわせてキャリア・パスポートを作成し、活用を促すことによって効果的なキャリア教育を行う。⑧⑨⑩	B	○新型コロナウイルス感染症対策についてPTAとして生徒の学校生活の安全をサポートできる協力方法の検討を進める。
	○専門委員会活動の活性化	○各年次後援会等とも連絡を取りつつ、PTA総会、本部役員会、専門委員会等で今後の課題・展望について意見を集約し、PTA活動の活性化を図る。②	B	
図書部	○図書館利用の促進	○事業推進・危機管理・研修・広報・教育支援の各委員会活動を活性化させ、学校行事での協力、HPでの広報活動、保護者向け研修活動などの充実を図る。②③	B	○社会科学及び自然科学分野の蔵書割合は現状を維持することができた。次年度も教科との連携を通して、同分野での資料拡充に努める。 ○図書委員会の活動に活性化が見られた。次年度も更に積極的な活動ができるよう支援する。
	○図書委員会の活動の活性化	○バランスのとれた図書資料の拡充に努め、「読書センター」としての機能を充実させる。リクエストカードの利用等を通して、教職員や生徒の希望に応える。① ○各種行事への参加・啓発を通して、積極的な図書館の利用を促す。① ○小論文指導・探求活動など、生徒の学習支援に資する図書資料の整備を図ることで「学習・情報センター」としての機能を目指す。①	B	
情報管理部	○情報管理に係る全体計画と各種データの管理	○広報活動(図書館だより、図書館報)、図書館内の環境整備、図書委員会主催の行事を通して、委員会の積極的な活動を支援する。①	A	○後期課程の新課程開始に伴い、校務支援システムに関する研修を行う。 ○ICT機器の台帳作成や整備作業を引き続き行う。 ○次年度から、ICTの活用についてどの教科でも幅広く活用できるように、研究会を設置したい。
	○ICT環境整備とコンピュータ教室の管理	○校務支援システムの1年間の手順を作成する。構内ネットワークのセキュリティの保全を行い、職員に対処策研修を行う。④⑪	B	
	○ICT機器を活用した授業研究と情報モラルの確立	○ICT機器の台帳を整備し、授業での活用に向けて周辺機器の整備を行う。④ ○コンピュータ教室の定期メンテナンスを行う。①④ ○ICTを活用した授業の実践例を収集・整備するとともに、ICTの活用に伴う使用上のモラルなどの啓発活動に努める。①④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
事務	○予算の効率的な執行を図る	○関係規則等を遵守した事務処理を行う。①③④⑦⑨ ○予算を計画的に執行する。①③④⑦⑨ ○全職員で節電・節水等についての共通理解を図る。⑦	B	B	○生徒にとってより豊かな教育環境となるような計画的、効率的な予算執行に努める。 ○施設整備の定期的な点検により、危険箇所の早期発見・早期修繕を行う。 ○「学校の顔」であるという自覚を持ち、適切な来客等対応を行う。
	○教育環境の整備を図る	○地震や台風等の際に施設設備点検を実施する。⑦ ○施設設備等危険箇所の早期発見・早期対応を図る。⑦ ○感染予防の環境整備に努める。⑦	B		
	○窓口業務・電話の対応等の適切な 接遇態度を心がける	○窓口での来校者対応、電話対応を適切に努める。⑦ ○不審者対策に努める。⑦	B		
第1年次	○基礎的な生活習慣の確立と自主的・ 自立的な態度の育成	○あいさつや時間遵守、礼儀やマナーについて、年次集会やホームルーム等で適時指導を行い、本校生としての基礎的な生活習慣の定着を図る。⑤ ○ホームルーム委員や各委員、係活動を充実させるとともに、生徒が主体的に取り組めるような行事を企画し、自主的・自立的な態度を育成する。⑤	B	B	○行事の企画や進行に加え、HR正副委員長が、月・週の目標を考えて、ホワイトボードに記入し、意識づけを行った。普段から、生徒自身が主体的に活動できる工夫を行っていく必要がある。 ○面談だけではなく、オンラインでのアンケートも実施し、生徒理解を図った。ホームワークに取り組むのが苦手な生徒がおり、継続的な声かけや指導が必要である。
	○視野を広くもち、夢や目標の実現 に向けて努力する態度の育成	○授業に真剣に取り組ませるとともに、生徒の実態に合ったホームワークの内容を確立し、学習習慣の定着を図る。⑤ ○個別指導や面談を定期的に実施し、生徒が安心して生活し、目標に向かって努力することのできる環境づくりに努める。⑥ ○Σソフィア・プロジェクトの実践や進路学習等を通して、高い目標をもたせ、全力で努力する態度を育成する。①⑧⑨⑩	B		
第2年次	○確かな学力と、より高い適応能力 の育成	○学習に関する個別相談や学習支援等を行い、学習意欲の向上に努める。④ ○家庭学習の定着を図るため、ホームワークの内容や目的を明確に示すとともに、教科間におけるバランスや提出日等の調整を行う。④ ○国内語学研修や研究所訪問、各教科の学習を通して、様々な分野への関心を高めるとともに、他者との関わりの中で社会に適応できる力（コミュニケーション能力・創造力・表現力等）を培う。④	B	B	○学習意欲の向上については、今後も生徒に対する働きかけの工夫が必要である。具体的な目標設定と到達度の検証・把握ができるような方策を生み出していく。 ○学級活動や年次活動の時間確保が課題である。生徒の主体的な活動を充実させるために、活動時間を確保し、各学級の委員長・副委員長・各委員会活動を充実させる必要がある。 ○Σソフィア・プロジェクト委員会と年次担当との連携が課題である。各活動に向けての事前準備・事前指導を行う時間の確保と、指導する教員の研修等の設定が必要である。
	○自主的、自立的に行動する態度の 育成	○学級活動や年次活動において、生徒一人一人が役割を認識し、自ら判断し行動する態度を育成する。⑤ ○年次行事や1年次との交流会など、生徒による主体的な行事の企画・運営を推進し、企画力や実行力を培う。⑤	B		
	○夢や目標の実現に向けて努力をす る態度の育成	○Σソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、課題解決に向けての支援に努める。⑧ ○キャリア教育を充実させ、将来の夢や目標を常に意識した学習への取り組みができるよう支援する。⑨⑩	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第3年次	○学力の向上と、豊かな人間力の育成	○前期課程としての基礎学力の定着のために「バーチャル高校受験生」を合い言葉に年間を通した計画的な学習指導により、学力の向上を図る。 ④ ○Σソフィア・プロジェクト関連行事を通して、社会に適応できる力（コミュニケーション能力、創造力、実行力、発信力等）、豊かな人間性を育む。 ⑤	B B B	B	○「バーチャル高校入試」に向けた学習指導や家庭における自主学習の定着を实践した。引き続き、基礎学力定着のための取り組みを行う必要がある。 ○課題探究活動や語学研修などで実践、経験したことを次年度のΣソフィア・プロジェクト行事で改善、発展させていく。 ○日々の教育活動や後期課程説明会等で後期課程生となる心構えをもたせた。今後、さらに進路選択への意識を高め、個々の目標が設定できるよう支援していく。
	○自主的、自立的に行動する態度の育成	○後期課程への移行を見据え、様々な場面で、自ら判断し自ら行動することを意識できるように支援する。 ⑤ ○生徒会や委員会において、他年次と協力し合いながら、主体的な活動や、行事等の企画・運営を推進する。 ⑤			
	○後期課程に向けた進路選択の準備と目標の設定	○筑波大学、茨城県立医療大学の訪問や、職業や大学、学部の適正検査を用いて、進路選択への意識の高揚を図る。 ⑧ ○Σソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、後期課程に向けての目標設定の支援に努める。 ①⑧⑨⑩			
第4年次	○確かな学力と、豊かな人間力の育成	○普段の授業を大切にして、学習に積極的に取り組むとともに、各種テストの分析を行い、個別指導の充実を図る。 ④ ○学校生活の中で、社会に適応できる力や責任ある行動をとり、後期生としての自覚（自律・自立・責任）を意識できるように努める。 ⑤	B B B	B	○毎日の授業や土曜講座・模擬試験の復習朝の小テストなどを通して、学習意欲の向上を図った。中下位層の底上げにさらなる工夫が必要である。 ○後期生としての自覚を促すため、早い時期に年次集会や進路行事を実施すべきである。 ○課題研究や進路講演会などを通して、進路選択への意識を高めることができたが、進路の話については、講演会・年次・学級で細かい計画を年度初めに立てていくことが必要である。
	○自主的、自立的に行動する態度の育成	○学校生活・社会生活のあらゆる場面で、自ら判断し自ら行動することを意識できるように支援する。 ⑤ ○学校・学級の一員であることを意識し、生徒による主体的な活動や、様々な学校行事の企画・運営を推進する。 ⑤			
	○具体的な進路選択の準備と、後期課程における目標の設定	○進路講演会や、後期課程での課題研究・体験学習を行うことにより、進路選択への意識を高め、文型・理型の選択に生かす。 ⑧⑩ ○Σソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、将来や進路における目標設定の支援に努める。 ①⑧⑨⑩			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第5年次	○学力の向上と、発展的な学習姿勢の確立	○授業の質を高め、生徒自らが主体的に学習に取り組む姿勢を育むとともに、特に英・数における習熟度授業での成果を上げる。また、各種テストの分析を図り、学力向上に努める。①④ ○校外模試や大学の公開講座等を積極的に受講させ、校内では体験できない事柄に積極的に参加させることで、教科にとらわれない学力の向上を目指す。⑤⑩ ○修学旅行では、現地での自主的な学びを促進する態度の育成に努める。④	B	B	○コロナ禍で体育祭や修学旅行が中止となり、精神的な達成感や充足感が得られないまま受験期を迎えることに、不満や不安を抱えている生徒がみられる。今後代替行事を計画・実施し、受験に向かう意識付けをしていく必要がある。 ○18歳成人への移行に合わせて、成人としての意識をもたせるとともに、困難な状況に対して、自ら課題解決する力の育成が求められる。 ○大学入試改革の情報や動向をいち早くつかみ、生徒と共有するとともに、個別面談などを通して、生徒が自分自身で目標の実現に向けて努力するための方策を工夫していく。
	○豊かな人間性と積極的に行動する態度の育成	○様々な学校行事を通して、6年次と共に学校全体を牽引する態度を育てる。 ○委員会・部活動においても、学校のリーダーとして積極的に行動できるようにする。⑤ ○個人研究を通して、課題解決の方策を提言する発想力やプレゼンテーション能力の育成を図り、これからの社会人に必要な「生きる力」を身に付ける。⑧⑨			
	○具体的な進路選択の準備と、目標の設定	○面談を通して、生徒が自分自身の力を把握し、目標を実現するための方法を考えさせるようにする。⑧⑨ ○課せられた課題等を克服する手段を構築できるようにする。⑨ ○オープンキャンパス等への参加を積極的に行い、進路目標の設定を行う。⑧			
第6年次	○学力の向上と、探求的な学習姿勢の確立	○学習習熟度に配慮した授業や課題を工夫し、学習に積極的に取り組む姿勢を育むとともに、校内及び外部模試の分析と個別指導を実施し、学力向上に努める。④ ○自身の進路希望と併せ、探究的な学習を奨励し、生徒がより自主的・主体的に取り組む学習環境、及び思考力・判断力・表現力の育成を重視した学習環境の整備を行う。④	B	B	○学習面では、上位層と下位層に対する指導の工夫がより一層必要になってきている。多くの生徒に受動的で指示待ちの姿勢があり、自ら学習課題を見出し計画的に取り組む意欲的な態度の育成が求められる。特に、夏季休業の延長で、その差がみられた。 ○コロナ禍において、文化祭等、感染症対策に配慮しながら工夫して実施できたことが良かった。学校全体に関わるような行事については、企画・運営等が生徒・教員間で引き継いでいけるような配慮が必要である。
	○豊かな人間性と自主的・自立的に行動する態度の育成	○学校行事等のプロジェクトで中心的な立場となり、同時に下級生への指導もできる人材を育て、社会に適應できる力（コミュニケーション能力、創造力、社会性、実行力、発信力等）を育む。⑤			
	○先を見通した具体的な進路選択の準備と、結実期における目標の設定	○面談を積極的に行い、進路に関する多様な体験活動や探究活動を進め、将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図る。⑧ ○Σソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、最終年次における進路実現への支援に努める。①⑧⑨⑩			